

ほんやくくしんだん よ
翻訳苦心談 1：読みはじめ（『蘭学事始』）

らんがくことはじめ えどじだい らんがくい りゅういがく いし すぎたげんぼく
『蘭学事始』は江戸時代の蘭学医（オランダ流医学の医師）杉田玄白
(1733-1817)の著作です。らんがくしゃ じしん たいけん ちゅうしん らんがく はじ
りから興隆に至る歴史を記録したものです。げんぼく さい とし ねん ぶんか
ねん せいりつ
年）に成立しています。

ほんぶん げんぼく なかま いし ご かいぼうがくしょ
テキスト本文は、玄白とその仲間の医師たちがオランダ語の解剖学書『ター
ヘル・アナトミア』をかんぶん やく はじ とき たいけん しる ぶぶん げんぼく
この書物の翻訳を開始したのは、ねん めいわ ねん げんぼく さい とき
した。この年、人体の「腑分」（解剖）を見学した玄白と仲間の医師たちは、『タ
ーヘル・アナトミア』のかいぼうず せいかく きょうたん しょもつ ほんやく
思い立ちます。しかし、当時はオランダ語の辞書もない時代でした。げんぼく
いったいどのようにしてほんやくさぎょう すす
翻訳作業を進めていったのでしょうか。

ほんぶん しゅってん
本文の出典：

すぎたげんぼくちよ おがたとみお こうちゅう らんがくことはじめ いわなみしよてん ねんはっこう ねん
杉田玄白著・緒方富雄 校註『蘭学事始』（岩波書店、1959年発行、1982年

かいはん
改版)